

# Noe 青木 Aoki 野枝

## Plan



門司赤煉瓦ブレイス旧サッポロビール醸造棟内でのプラン



## Profile

- 1958 東京都生まれ(東京都在住)
- 1981 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業
- 1983 武蔵野美術大学大学院造形研究科(彫刻コース)修了

彫刻家。主に鉄を素材としたインスタレーションを行う。細く溶断した鉄を溶接して作った軽やかな形態で場を埋めつくり、自然環境と一体となった作品を発表し続けている。その重い素材の重力を感じさせない空間を内包した表現は、従来の鉄の彫刻の概念を覆したといえる。1997年より彫刻と平行して、版画作品を発表。最近ではフォトコラージュ作品も制作し、空間表現におけるさらなる広がりを追及している。美術館、企業のコレクション多数。ワークショップも各地で精力的に行っている。[O]

《空の粒子／西田尻》2009年 新潟  
photo: 山本 糾



## Workshop

11月21日(土)10時~16時30分

「世界をつくろう」 社団法人 日本溶接協会 九州地区溶接技術検定委員会

あのかたい鉄も特別な工具で切ったり、くっつけたりすることができるんです。鉄の街で彫刻家・青木野枝さんと楽しく鉄のオブジェづくりに挑戦しましょう!

鉄の彫刻家・青木野枝と一緒に鉄を溶断・溶接して作品を作る、という「鉄都・北九州」らしいワークショップ。当日はあいにくの木枯らしが吹く寒い一日だったが、小学生から大人まで14名が火花を散らして、熱く鉄に取り組んだ。素材として4.5mm厚の45cm四方の鉄板を使い、「自分が住んでみたい世界」「自分の世界」を表現することとなった。まず、鉄板にチョークで描いた下絵の通りに溶断。その後切り取られたパーツを組み合わせて溶接した。完成したのはゲームに登場するキャラクターを組み合わせたもの、キャンドル立てや、クリスマス・リース、家状の立体、レリーフ、エッシャーの滝のような不思議な建物など。参加者は、初めて鉄の彫刻に挑戦したとは思えない豊かな想像力と造形力で魅力的な作品を作り上げていった。いくら製造業が多い場所とはいえ、一般人が鉄を加工することはめったにないため、地域の産業を理解するためにも大変貴重な体験になったと思う。[O]



## Research

ここ数年青木は鉄を細く溶断し、それを気泡か球体を思わせる丸い形体が重なり合う形に溶接し、重いはずの鉄の重力を感じさせない軽やかな作品を作り続けている。2009年夏の越後妻有アートトリエンナーレでは土蔵を用いて、その内部と外部の構造を結ぶような作品を発表した。彼女は11月に北九州を10数年ぶりに訪れた。展示場所の希望が「古い建物」ということもあり、門司区にある旧サッポロビール工場跡の門司赤煉瓦ブレイスを見学した。約100年前に建てられた醸造棟の2階は広く天井高もあり、そこで鉄の作品を展示できればと考えた。しかし、空間を埋め尽くせるだけの鉄の準備と、制作を進める場所を探す問題がある。制作場所は今後も探していく予定だが、今回はすぐ近くの西村鉄工所を見学させていただいた。来秋の展示に向けてさらに下見と協力企業探しをすることになっている。鉄の街のプライドをかけて青木が鉄と深い対話をし、空間に刻まれたその歴史の重さに負けないような作品を作り出せるよう協力していきたい。[O]

